Heart Beauty Salon

サトリのココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法――

女性のがんばりが家庭や社会を変える時代です

日蓮宗 本山本満寺貫首
伊丹栄彰さん

第59回

いたみ・えいしょう　1928年生まれ、福井県出身。武生市にある一乗寺で生まれ、住職である父のもとで得度。1951年、立正大学卒業。大阪市・雲雷寺住職を経て、1998年より京都市・日蓮宗本山本満寺の貫首に就任。2011年4月、本満寺において若手僧侶を育成するための「紹継塾」を開塾。自ら塾長となり、後進の指導・育成にあたっている。

私は福井県にある一乗寺というお寺の次男として生まれました。生まれながらにして虚弱体質で、両親はとても心配したようです。それでも、6歳のときには袈裟をかけて、師匠である父とともに、お勤めに歩いていました。父には〝お坊さんとして元気に育ってほしい〟という思いがあったのかもしれません。

兄が出家して東京の立正大学に進学していたので、「私も立正大学へ行きたい」と父に直談判したところ、父の答えは「家からは一文も出せない。勝手にしろ」でした。そこで檀家さんに縁のある東京のお坊さんを紹介していただき、上京することに。私は赤羽・大恩寺の住職を新たな師匠とし、お世話になることになりました。

その当時はまさに太平洋戦争の真っ只中。大学への通学途中に機銃掃射を受けたことは鮮明に覚えています。友人はほとんどが18歳で特攻隊へ。私は結核を患ったため、健民修練所へ入り、軍人の証である竹の水筒をもらっていよいよ編隊というときに終戦を迎えました。

私たちは皆、仏になる素晴らしい心を持っています

1953年、私に縁談話がやってきました。話はとんとん拍子に進み、結婚。妻の住む大阪・雲雷寺へと移りました。大阪も当時は戦災の復興途中で、私たち夫婦もしばらくバラック生活でした。その後、さまざまな出会いを経て、1998年に京都の本満寺へ。私は62世の貫首となりました。

本満寺の正式な寺号は「本願満足寺」といいます。本願とは仏様の願い。その願いとは道徳的な人間らしい人間になること＝仏様のような人間になることです。法華経では、私たちは皆、仏様の子どもであると説いています。どんな極悪な人間でも、仏になる素晴らしい心をいただいているのです。その心を見出すことが救いであり宗教であり、その心を悟ることによって即身成仏するのであります。

〝かかあ天下〟にならないことで夫婦幸せな未来が築けます

今の時代は女性のがんばりが家族や社会にとって大切です。「女は弓、男は矢」とは日蓮上人の教えですが、夫を一人前の男にするもしないも弓の力＝女性の力次第。どんなにか弱く思える矢でも、弓の力があれば遠くの的まで達することができるのです。女性にはそんな弓になってほしいと思います。

そしてもう一つ大事なことは、〝かかあ天下〟にならないこと。日蓮上人は、女性は「ものに従って、ものを従える身なり」と教えています。女性は夫に従い仕えることが大事だけれど、それがいずれは多くの人の心を従えさせていく存在なのだ、ということです。それによって夫婦仲が良くなり、幸せな家庭と社会が築けます。そうしたがんばり方を身につけることが大切なのです。

上／創建は1410年。徳川吉宗の病気平癒を祈願した由縁で将軍家の祈願所にもなった。左／春には見事な枝垂れ桜が見られる。

撮影／光川十洋　取材・文／本木頼子　デザイン／黒田志麻